# 研究・調査報告書

| 分類番号 | | 報告書番号 | 担当 |
|---|---|---|---|
| C-141 | C-139 | 20-056 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之 |

**題名（原題／訳）**

Reciprocal influences of tobacco use on illicit opioid and alcohol use during the first six-months of specialist addiction treatment
専門家による依存症治療後 6 か月間における、違法なオピオイドおよびアルコール使用と喫煙の相互影響

**執筆者**

Eastwood B, Clare T, Dockrell MJ, Locker J, Chowdary Q, Jahr S, Jones A, Robson D, Marsden J.

**掲載誌**

Drug Alcohol Depend. 2021 Jan 1;218:108418. doi:10.1016/j.drugalcdep.2020.108418.

| キーワード | PMID |
|---|---|
| アルコール、Cross-lagged model、オピオイド、喫煙、たばこ、治療. | 33262003 |

**要　旨**

**目的：**依存症治療開始後 6 か月以内の、喫煙頻度と違法オピオイド使用およびアルコール使用頻度の変化との相互関係を検討した。

**方法：**2018、19 年、英国の公的資金による専門家の依存症治療を受けるため入院した成人のうち、6 か月後（2019 年 9 月 30 日まで）もオピオイド使用障害（OUD）やアルコール使用障害（AUD）の治療を続け、入院時と 6 か月後の情報収集が可能な、OUD 患者 22,046 人、AUD 患者 15,251 人（それぞれ対象者の 82.4%、78.8%）を分析対象とした。物質使用頻度は、入院時と 6 か月後に、過去 28 日間の使用日数を面接で調査した。2 つの交差ラグパネルモデルを用いて、入院前 28 日間の物質使用頻度と、入院 6 か月間の喫煙頻度の変化との関係を検討した。さらに、入院時の喫煙頻度と、入院 6 か月間の物質使用頻度の変化との関連も検討した。共変量は、年齢、性別、雇用状況、ホームレスか否か、紹介元、注射歴、および親の同居状態とした。

**結果：**OUD 患者において、入院時の高頻度な喫煙は、6 か月後のオピオイド使用日数の相対的増加と関連を認めた（0.02 日, 95%信頼区間［CI]: 0.00-0.03)。AUD 患者において、入院時の高頻度な喫煙は、6 か月後のアルコール使用日数の相対的増加と関連を認め（0.03 日, 95% CI: 0.02− 0.04)、入院時の高頻度なアルコール使用は、6 か月後の喫煙頻度の相対的増加と関連を認めた（0.04, 95%CI: 0.02− 0.06)。

**結論：**入院時の喫煙が、6 か月後のオピオイドまたはアルコール使用頻度と関連した。治療戦略の一環として、喫煙行動を標的とすることが重要であると考えられる。